

ふるさと探訪

第23回

西条藩陣屋跡



慶長6（1601）年、一柳直盛が徳川家康より5万石の領地を伊勢国神戸に与えられました。しかし、伊予国の河野氏を祖とする直盛は、伊予国への領地替えを幕府に願



歴史を感じさせる大手門とつつじが見事なお堀

い出て、寛永13（1636）年に6万8600石に増加され西条藩主になりましたが、西条に来る途中大阪で病没し、領地は幕命により長男の直重に西条3万石、次男直家に川之江2万8600石、三男直頼に小松1万石が分地され、直重により現在の地に陣屋が築造されました。その後、寛文10（1670）年に紀伊大納言徳川頼宣の次男松平頼純が藩主となり、以来松平3万石の城下町として十代藩主頼英が明治2（1869）年、版籍を奉還するまでの約200年間繁栄しました。

現在陣屋跡は、西条高等学校となっておりますが、大手門や大手門脇の堤、周囲にめぐらされたお堀などが昔を偲ばせ、昭和39年には陣屋跡が市指定の史跡となりました。お堀の周囲には、つつじや花菖蒲などが植えられており、花の咲く季節や伊曾乃神社の秋祭りには多くの市民が訪れ、憩いの場となっております。

■住所 明屋敷234

■駐車場 あり（無料）

